

# けんぱくものしりシート

なまず  
**鯰**

おの  
**尾**

かぶと  
**兜**



なまずおのかぶと  
**鯰尾兜**  
いわてけんしていぶんかざい  
(岩手県指定文化財)  
たかさ 65.6 cm  
とうかんぞう  
当館蔵

あれ？この黒くてピカピカしたものは何だろう？



ハクちゃん

これは、昔々の戦いの時に被った兜よ。鯰尾兜といって、江戸時代（1603～1868年）に盛岡藩をおさめていた南部家に代々伝わってきた兜なの。今から400年くらい前の、戦国時代の終わりころから江戸時代のはじめころにかけて流行した、「変わり兜」の一種よ。



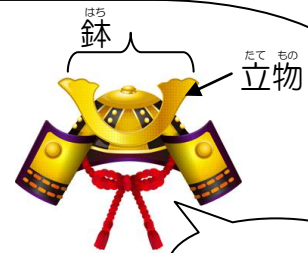
かいせついん  
解説員

変わり兜って、ふつうの兜と比べて、どんなところが変わっているの？



ケンくん

兜の形が変わっていて、「鉢」の部分の何かを似せて面白い形に作ったものや、動物の毛や革で飾りをつけたものもあるの。その他に、正面や側面、背面にさまざまなものの形に似せた「立物」をつけたりする場合もあるわ。



ふつうの兜



動物の革  
金属

この「鯰尾兜」は、上のほうの長くてとがった部分がとてもおもしろくて特徴的ね。この部分は、金属ではなくて、動物の革に漆（※）を塗ってしあげてあるの。

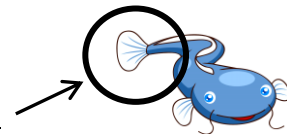
※漆については、けんぱくものしりシート民俗No.7「南部漆」を見てね！

なるほど！この兜は、鯰尾兜という名前だから、鯰の尾の形をしているのかな。……あれ？でも、鯰の尾はこんな形じゃないよね？

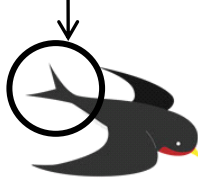


そう、いいところに気がついたわね。

ハクちゃんのいうとおり、鯰の尾の形はこんな感じ



よね。この兜は、鯰の尾にはちっとも似ていなくて、何かに例えるならば鳥の燕の尾のような形をしているでしょう。実はそのために、「燕尾形兜」



とも呼ばれているの。

それでも、南部家では代々「鯰尾兜」として伝わって来ているのですって。



へえ、不思議だね。何か理由があるのかな。



たしかなことは分かっていないのだけれど、ひとつの説があるので紹介するわね。

じつはこの兜は、もともとは南部家のものではなくて、現在の福島県会津地方を治めていた大名、蒲生氏郷(1556~1595年)のものだったのよ。のちに盛岡藩主となる南部利直(1576~1632年)と氏郷の妹が結婚したとき、南部家に贈られたの。氏郷が鯰の尾をまねた兜を被っていたことはとてもよく知られていて、氏郷の兜といえば「鯰尾」、というイメージが強くてついていたのですって。そのため、南部家に贈ったこの兜も、「鯰尾兜」と伝わってしまったのだと考えられているそうよ。



なるほど、おもしろいね！他の形の変り兜も見てみたいなあ。

盛岡藩や、その他の藩があったところにも、色々な形の面白い変り兜が残されているのよ。ぜひ、本やインターネットなどで調べてみてね。



【解説員 齋藤菜穂美】

参考にした本 『決定版 図説・戦国甲冑集』 株式会社学習研究社 2002年 / 『戦国名将列伝』 株式会社新人物往来社 2008年 / 『超ビジュアル！戦国武将大事典』 株式会社西東社 2016年 他

らいげつ がつ  
来月(4月)の  
けんぱくものしりシートは  
みんぞく  
民俗-12だよ！  
おたのしみに！



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34  
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214  
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>